

什器悉く此語を記せざるは無し。甚しきは、人骨にも刻する者あり。此語は實に喇嘛教の骨髓、經典の根元にして、一たび唱ふれば、萬言の經典を通誦せしと同一様に、災厄を免れ、成佛を祈るの道と信するなり。

信仰

西藏人、蒙古族の喇嘛教を信すること極めて厚く、子弟の出家する者は、在家する者よりも多し。西藏拉薩府に於ける幾多の廟宇、共に壯麗を極むるもの多きは、一に蒙古の喜捨金に頼ると云ふ。年々蒙古の各部より拉薩寺へ寄贈する金額は、實に數十萬兩に上り、其の熱心なるは、千里を遠しとせず、旅行に一年餘を費し、漸く拉薩宮殿に達するや、長跪して達頼の出座を待つ。斯くして達頼を見るを得れば、一生の光榮とし、千百金を献ぐるを吝まず、更に甚しきに至つては、家財を賣却して金銀に換へ、之を衣裡に縫着し、行々食を乞ひ、拉薩に參詣して、其の金銀を喜捨し、復た初の如くして家に歸る、之をチョーシヤン朝山又はチョーホフ朝活佛と稱へ、親近皆口を極めて賛美す。達頼其他の高僧を見るときは、地に匍伏し、歡喜落涙して敬服す。信者の金銀を佛寺僧侶に喜捨し、冥福を祈るの盛なる喇嘛教徒の如きは稀なるべし。

西藏以外、中央亞細亞一帶の地を風靡せる喇嘛黃教は、果して如何なる感化を人

蒙古族に
及ぼす感
化力